

平成16年度 第1四半期

景気動向調査集計結果

調査概要

1. 調査目的 前回(16年2月)初めて行った景気動向調査を受けて、以後四半期ごとに調査を実施し恒常的に管内景況を把握する。

2. 調査期間 平成16年5月6日～14日

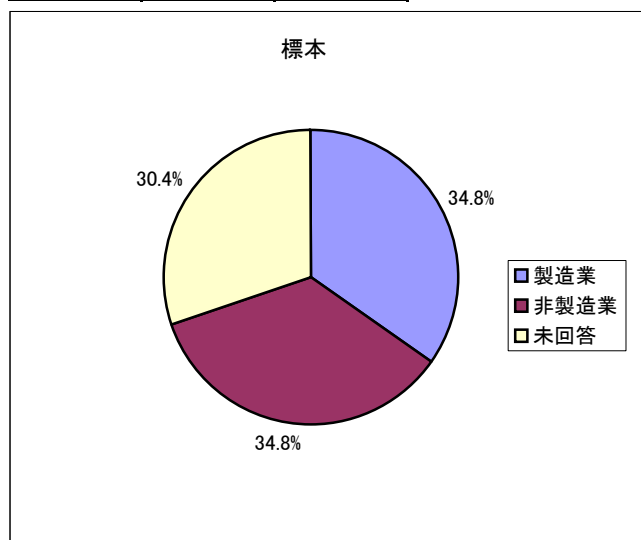
3. 調査方法 FAXにより依頼、回答

4. 調査対象 当所部会役員129社中、大企業を除く中小企業112社

※DI値＝「好調＋やや好調」(持ち直す)の回答割合から「悪い＋やや悪い」(悪化する)の回答割合を差し引いたもの。数値が高いほど景況感が良く、低いほど悪い。
プラス100が最高値、0が平均、マイナス100が最低値を示す。

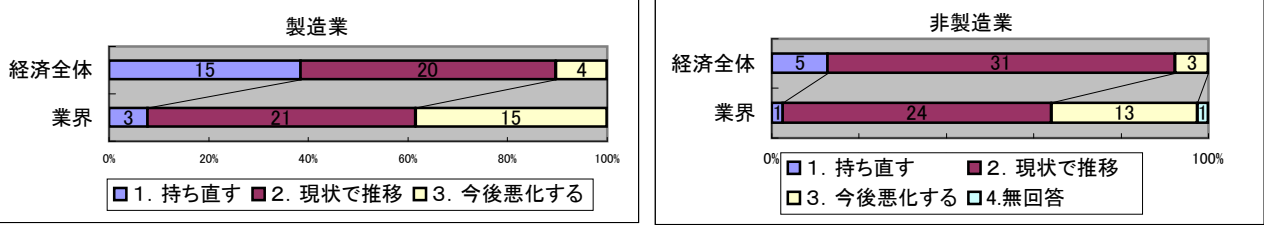
5. 標本数

	調査対象	回答	標本	調査対象	回答	回答
一般工業	18	14	製造業	67	39	58.2%
建設業	18	8	非製造業	45	39	86.7%
醤油工業	3	1	合 計	112	78	69.6%
食品工業	9	6	未回答		34	30.4%
皮革工業	19	10				
公益業	8	8				
サービス業	9	9				
商業	28	22				
合計	112	78				

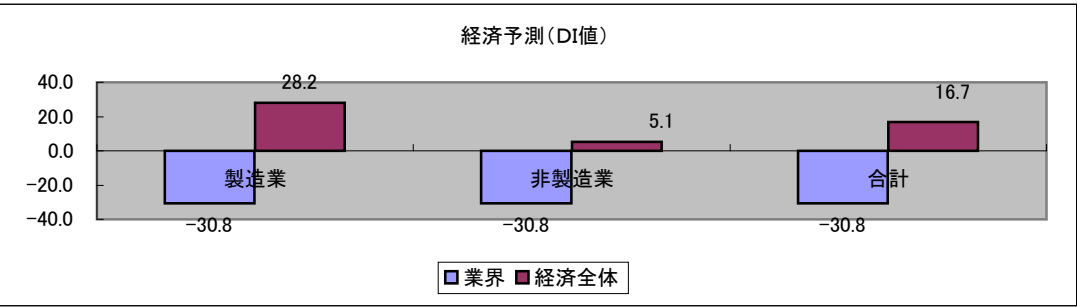


調査結果

1. 今後の経済予測

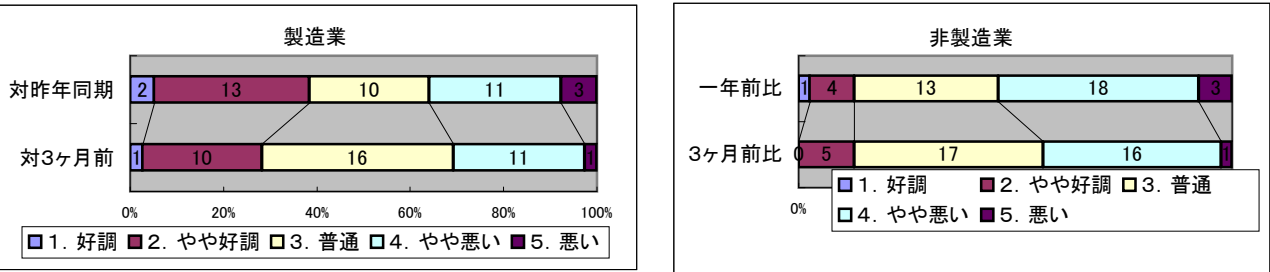


DI値	業界	経済全体	業界(前回)	経済(前回)
製造業	-30.8	28.2	-41.3	-2.2
非製造業	-30.8	5.1	-44.4	-8.6
合計	-30.8	16.7	-42.7	-4.9

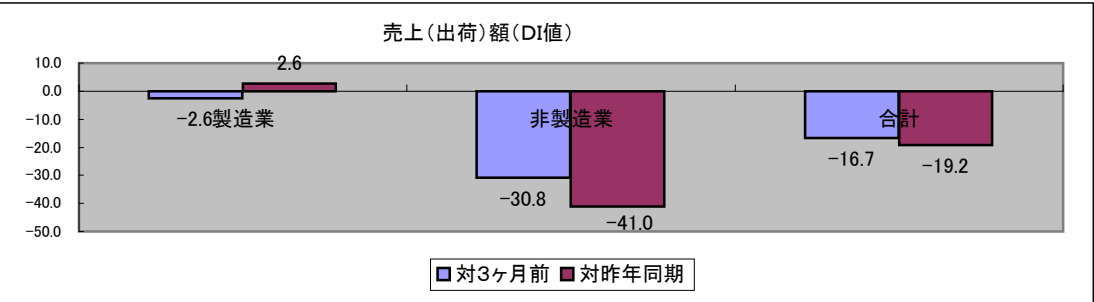


DI値において経済全体では製造業、非製造業ともに前回のマイナスよりプラスへ転じた。また自社が属する業界ではマイナス値が製造業、非製造業ともに10ポイント以上縮小した。

2. 売上(出荷)額について

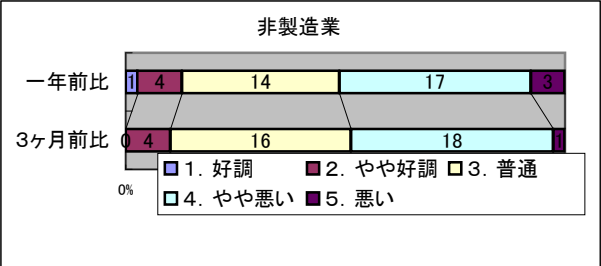
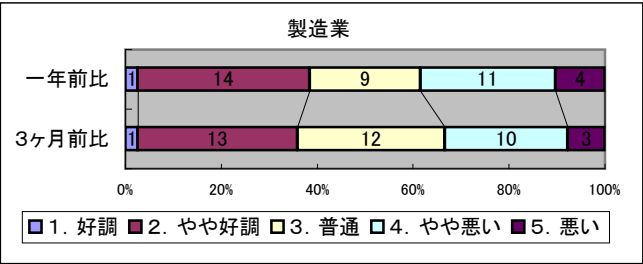


DI値	対3ヶ月前	対昨年同期	対3ヶ月前(前回)	対昨年同期(前回)
製造業	-2.6	2.6	-30.4	-13.0
非製造業	-30.8	-41.0	-41.7	-44.4
合計	-16.7	-19.2	-35.4	-26.8

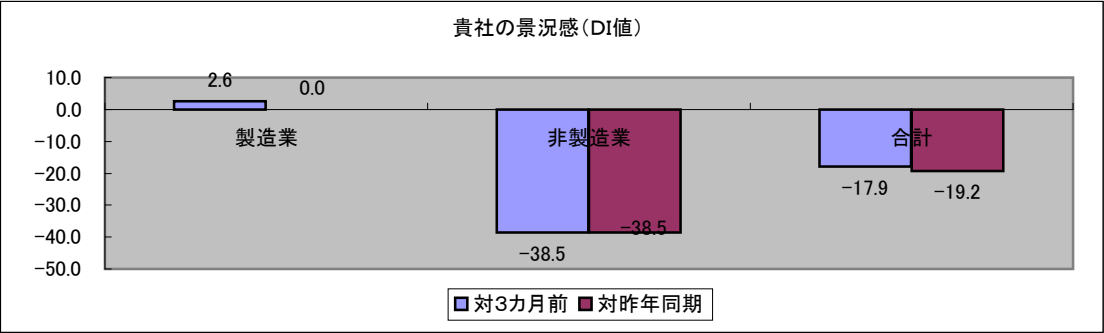


前回の3ヶ月前と比べると製造業では27. 8ポイント、非製造業では10. 9ポイントマイナスが縮小し、1年前比では製造業で15. 6ポイント、非製造業で3. 0ポイント、マイナス値が縮小している。非製造業は昨年比の方がマイナス値が高く、依然好転の兆しが見られないことを示している。

3. 貴社の景況感について



DI値	対3カ月前	対昨年同期	対3ヶ月前 (前回)	対昨年同期 (前回)
製造業	2.6	0.0	-19.6	-15.2
非製造業	-38.5	-38.5	-47.2	-41.7
合計	-17.9	-19.2	-31.7	-26.8

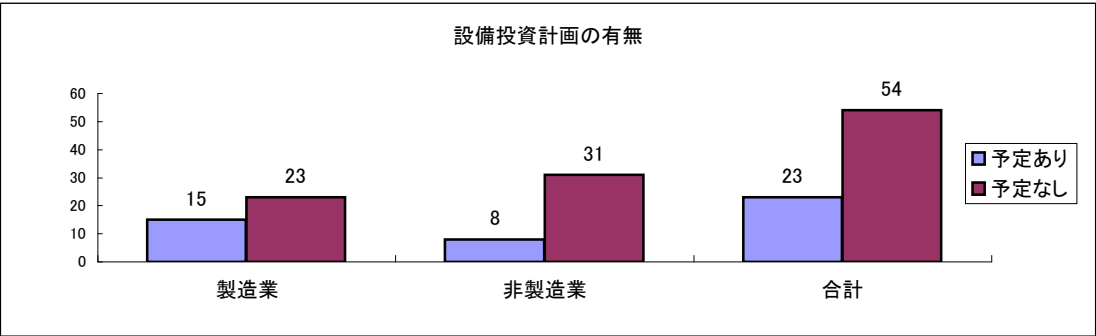


3ヶ月前比、一年前比とも製造業と非製造業では大きな差が認められる。
前回(2月)の結果と比較しても製造業で3ヶ月前比、一年前比とも15ポイント以上マイナス値が縮小したのに対し非製造業では縮小値が8.7及び3.2と小さく、景況感において明らかな差異が認められる。

4. 設備投資計画について

	予定あり	予定なし	合計
製造業	15 [38.5%]	23 [59.0%]	38 [97.4%]
非製造業	8 [20.5%]	31 [79.5%]	39 [100.0%]
合計	23 [28.9%]	54 [71.1%]	77 [98.7%]

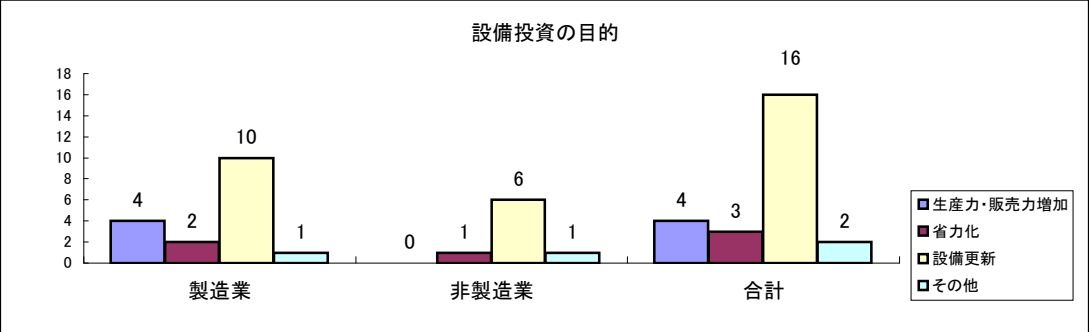
* 無回答



設備投資計画は製造業が約40.0%、非製造業では約20.0%となり前回結果を比較しても認められる。

5. 設備投資目的について

	生産力・販売力増加	省力化	設備更新	その他	合 計
製造業	4	2	10	1	17
非製造業	0	1	6	1	8
合計	4	3	16	2	25



製造業・非製造業ともに設備更新が約6割を占めた。製造業では前は生産力・販売量増加、省力化への投資が約7割を占めていたが今回の結果では設備更新が6割を占めている。

総 括： 製造業、非製造業ともに今後の経済予測、売上（出荷）額、貴社の景況感の3項目においてDI値が前回調査結果よりもマイナスポイントが縮小し、景況の停滞感は薄れてきている。特に製造業においては売上（出荷）額、貴社の景況感のDI値がほぼ平均水準となり景気回復への期待が見られた。一方、非製造業においても少しではあるがマイナスポイントが縮小した。